

2019年度(平成31年度)学校評価自己評価表

千年中学校区	校番 70	福山市立能登原小学校
最終更新日	2019年(平成31年)4月12日	

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	「つながりがあり、確かに身に付いた知識」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・積極性」、「深い思考と創造性」、「自らへの自信と共感力」
・情報発信をさらに密にしていきたい。 ・地域との結び付きのさらに強化し、異年齢との関わり合いの機会の増加を期待する。 ・客観的に見える数値も大切だが、そこに表れない部分もしっかり捉えてもらいたい。 ・働き方改革について、早く帰るのみではなく、やりがい、充実感を持って取り組むことを期待する。	□全国学力3教科通過率全国比…小学校-6.8, 中学校-3.6 □(基礎・基本定着状況調査生徒質問紙より肯定的回答) ・「学校が楽しい」…小学校 90.5%, 中学校 90.8% ・「授業が分かる」…小学校 77.3%, 中学校 88.1% □体力調査県平均以上項目率…小学校 69.1%, 中学校 72.9% □朝食摂取率…小学校 96.4%, 中学校約 92.9% □規範意識に係る肯定的回答…小学校 95.0%, 中学校 99.5% □地域への愛着・誇り…小学校 90.3%, 中学校 97.9%	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	○ 関わり合いを通して、自分の思いや考えを分かりやすく表現できる。 ○ 沼隈・福山に愛着と誇りを持ち、主体的に考え、判断し、行動できる。
		中学校区として統一した取組等	・「読解力を育み、思考力・判断力・表現力を高める授業づくり」:校区研究主題(2年目) テキストを正しく読み取り、比較・分類・関連付けて思考を深め、根拠を持って判断し、分かりやすく表現する力を育成 ・主体的・対話的で深い学びのある「校区で目指す授業の姿」を共有し、合同の授業研究、理論研修を推進 ・中学校の試験発表期間中の校区一斉家庭学習強化週間(スターウィーク)実施 ・校区一斉挨拶運動(毎月17日)、校区一斉地域清掃活動等の実施 ・総合的な学習を中心に、ESD・ふるさと学習の観点で9年間を系統立て、教科とのつながりの強化

III 自校

ミッション	知・徳・体の基礎基本を徹底し、生徒一人ひとりに国際社会で生きる力を身に付けさせるとともに沼隈・福山に愛着と誇りを持たせ、地域社会の活性化に貢献できる人間を育成する。
学校教育目標	自ら伸びる子どもの育成
現状 (○良さ, ●課題)	<p>&lt;児童&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○規範意識が高く、自ら進んで自主的に動く児童が多い。</li> <li>○児童、授業で仲間と協力し合い高まり合おうとする児童が多い。</li> <li>○郷土への愛着や誇りを持つ児童は、95%以上である。</li> <li>●「わかる」手応えから、定着へ、さらに身に付けた知識・技能を使いこなすことに課題がある。</li> <li>●情報を正しく読み取り、どう表現すべきか・得意・課題に応じた適切な表現に課題がある。</li> </ul> <p>&lt;授業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「思考ツール」を活用した「ペア・グループ学習」を位置付け、仲間と関わり合いながら、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた。</li> <li>●児童が一つ一つの知識がつながり、「わかった!」「おもしろい!」と思える授業を目指す。</li> </ul>

育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	知識	スキル	意欲・態度	価値観・倫理観	
	確かに身に付いた知識 <b>知</b>	表現力 <b>表</b>	主体性 <b>主</b>	共感力 <b>共</b>	
めざす子ども像	低学年	○繰り返し使うことができる知識 ・学んだことを忘れないように、復習して身に付けている。 ・学んだことを使いながら新しい知識を身に付けている。	○最後まで、わけとともに述べるができる。 ・「ぼくは～だと思えます。わけは、○○だからです。～みんなに聞こえる声で最後まで言い切る。 ○順序立てて述べるができる。 ・「まず～、次に～、それから～、さいごに～」	○すべきことを一生懸命取り組んでいる。 ・自分の仕事を一生懸命取り組んでいる。 ・ノートをきちんと書く。	○人を大切にしている。 ・相手の話をだまって聞く。 ・話す人の方に体を向けて聞く。 ・友達と協力しながら活動する。
	中学年	○様々なことから、身に付けた知識 ・他のものと結び付けて、より多くの確かな知識を身に付けている。	○理由や事例などを挙げながら、筋道立てて述べるができる。 ・「たとえば、～」 ・「この写真を見てください。～」	○自分達の生活をよりよくするために、進んで取り組んでいる。 ・進んで自分の役割(日直や係の仕事など)に取り組んでいる。 ・自分達で課題やめあてを考えている。 ・積極的に発言している。	○人の気持ちを考え、自分を制御しようとしている。 ・自分の考えを述べる前に相手の思いを受け止めて聴こうとしている。(うなずき) ・人がうれしくなる言葉を使う。
	高学年	○関連性、発展性と有用感のある知識 ・身に付けた知識が、問題解決の際に活用することができる。 ・身に付けた知識が、どのように今後の学習へ発展していくか考えることができる。	○相手意識を持って、自分の考えを分かりやすく述べるができる。 ・自分の思いを大勢の前でも堂々と述べる。 ・比べたり、まとめたりに考えたことを要点をぼぼって述べる。 ・「まとめていこう。～」	○まわりのことを考え、見通しを持って進んで取り組んでいる。 ・自分の役割以外の仕事(学級委員や行事の役割、手伝い)にも積極的に取り組んでいる。 ・自分達で何をすべきか考えて行動している。	○人を思いやり、進んで人のために行動している。 ・がんばっている友達を支えたり、応援したりしている。 ・下級生の世話を進んでする。 ・友達のことを考えて注意する。
研究	教科等	体育科 理科・生活			
	主題・内容等	<p>「児童が主体的に、関わり合う中で、確かな力を育む授業づくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の主体的な学びを促すような導入・学習活動の工夫。</li> <li>・児童同士が、関わり合う学習活動の工夫。</li> <li>・比較・分類・関連付け等の「思考ツール」を活用する授業デザイン。</li> </ul>			
めざす授業の姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「思考ツール」を使って児童同士が関わり合うことで、「物の見方・考え方」を身に付ける。</li> <li>・児童同士の関わり合いの中で、理解の差を埋め、知識・技能の定着を図る。</li> <li>・既習事項との関連付けをし、見通しを持ち、課題解決させる。</li> </ul>				

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立能登原小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	力 セ 達 成 評 価	達 成 評 価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	力 セ 達 成 評 価	達 成 評 価	総 合 評 価
3	「自ら考え学 ぶ授業」づく りの推進	★	継続	○関わり合いを 通して、思考 力・判断力・表 現力を高める 課題発見・解決 学習の推進  ・標準学力調査 国語科・算数科において 全国平均以上	①【興味・関心を高める課題設定】 ・「なぜ？」と疑問を持ち、 「解決したい」と思わせる 等の授業始めに児童の 興味・関心を高める工夫 国 ②【関わり合いの場の設定】 ・目的を明確にした「ペア」、 「グループ」等の場を設定 ・ノートやホワイトボード等に 考えを書かせる。 共	①「解決しようとする課題に ついて、『なぜだろう』『やっ てみたい』と思う」 児童肯定的回答85%以上 ②「授業で、仲間と話し合う等 して、自分の考えを深めたり、 広げたりしている」 児童肯定的回答85%以上 ・「目的を明確にした関わり 合いの場の設定」 教職員肯定的回答90%以上 ③【思考ツールの活用】 ・比較、分類、関連づけの 思考ツールを活用 ・複数の資料等から統合 的に考える場を設定 知 表 ③「授業で、比較、分類、関 係付けして、何が分かる のか考えている」 児童肯定的回答85%以上 ・「思考ツールの活用」 教職員肯定的回答100%以上								
3	主体的に行動す る児童の育成		継続	○時と場に応じ、 自ら考え、判断 し、行動し、そ の結果に自信 が持てる児童 の育成 ・「人が困っている 時、進んで助ける」 児童肯定的回答95%以上	①【生活信条の意識強化・行動化】 ・「時を守り、場を清め、礼 を尽くす」の集団生活の 意識強化と行動化。 国 ②【奉仕活動の設定】 ・学校行事や児童会活動 として、奉仕活動の機会 をより多く設定する。 共	①「日常的に、学校のきまり を意識し、行動している」 児童肯定的回答100% ②「自分から進んでみんな のために尽くした」 児童肯定的回答95%以上								

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立能登原小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	力 <sub>セ</sub> 達 <sub>成</sub> 評 <sub>価</sub> 評 <sub>価</sub>	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	力 <sub>セ</sub> 達 <sub>成</sub> 評 <sub>価</sub> 評 <sub>価</sub>	総合 評 <sub>価</sub> 評 <sub>価</sub>	改善方策
3	基礎体力の向上		継続	○基本的な生活習慣の定着と基礎体力向上の推進  ・体力テスト結果 県平均以上項目 65/80 以上	①【校区スタンダードの意識強化】 ・「校区スタンダード」を指標に基本的な生活習慣を定着させる。 [目] ②【体力テストの弱点補強】 ・自らの課題を認識させ、課題克服の必要性を指導し、家庭でもできる基礎とトレーニングを啓発 [目]	①「校区スタンダード意識」 児童肯定的回答85%以上 「毎日朝食を食べている」 児童肯定的回答100%以上 ②「自分の体力に関する課題を意識し、その改善に取り組んでいる」 児童肯定的回答85%以上 ・「5分間運動に積極的に参加している」 児童肯定的回答85%以上							
3	地域に愛着を持ち、地域に貢献し、地域を誇りに思う児童の育成	★	見直し	○地域と結び付いた活動や集団で協力し合い高まる活動を通じて、地域と自校に愛着と誇りを持つ心の育成  ・「自分が住んでいる地域が好き」 児童肯定的回答95%以上 ・「学校へ行くのが楽しい」 児童肯定的回答90%以上	①【総合的な学習とのつながり強化】 ・「ふるさと学習」「ESD」の視点で、「総合的な学習」と各教科・領域及び行事の「つながり」強化 ・児童の活動の様子等を積極的に情報発信 [目] ②【教職員の力量向上と業務改善】 ・効率的・継続的な研修の実施 ・週1回定時退校日の確実な実施 ・教職員の元気とやる気を高める7時間45分を意識した効率的な教育活動の推進	①「能登原の町がすきだ」 児童肯定的回答95%以上 ・「学校に行くのが楽しい」 児童肯定的回答90%以上 ・「学校の様子がよく分かる」 保護者肯定的回答95%以上 ②週1回定時退校日の実施 実施率100% ・「教育活動に意義ややりがいを感じる」 教職員肯定的回答100%以上 ・「授業づくりに充てる時間確保」 教職員肯定的回答80%以上 ・「全教職員勤務時間外在校時間45時間以内」 実施率90%以上							

※ESD ……環境や貧困、人権などの課題に取り組み、持続可能な社会づくりの担い手を育てる教育

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。